

発刊にあたって

日中労働者交流協会（日中労交）は1974年に結成され、今年結成50周年を迎えました。以前から「50年のあゆみ」の発刊を計画していましたが、単に50年間の活動記録を残すことに留まるわけにはいかない情勢になりました。コロナの流行によって中国を訪問することができない一方で、2021年の日米首脳共同声明に台湾条項が盛り込まれ、「台湾有事」が叫ばれるようになったからです。日中友好運動は、平和運動の一環を担う活動ですが、こうした情勢の中で厳しい現実に向き合っています。しかし、歴史を紐解けば日中友好運動は、紆余曲折を経ながらも粘り強い運動により、国交正常化を図り、和解を導き、平和友好関係を築く道を歩んできました。

日中労交は、初代会長であった市川誠（元総評議長）の「誓い」をもとに2009年、南京の侵華日軍南京大屠殺遇難同胞紀念館に「日中不再戦の誓い」の碑を建立しました。この「誓い」こそが今の日中労交の活動の基調です。「日本軍国主義の中国侵略戦争を労働者人民の闘争によって阻止し得なかったことを深く反省し」、「子々孫々、世々代々にわたる両国労働者階級の友好発展を強化し」という「誓い」の言葉をどう実現していくのか、今鋭く問われています。

本書を発刊することは、日中労交が戦後の日中友好運動、平和運動の中でどのような役割を果たしてきたのか、これから果たすべきなのか、日中労交の「自分探し」の作業でした。日中労交は、組織消滅の危機にも遭遇しましたが、国際的な政治・経済・軍事情勢の変化の中で、また日本の労働戦線の変化の中で、反戦・反覇権、日中友好の灯を消すことなく、労働者階級の友好連帯を模索しながら活動してきました。このような諸先輩の初心と努力を忘れず、伝え続けることが必要だと思います。

中国で学生と交流したとき、「歴史を知らずして、政治を語ることなかれ」という言葉を教わりました。自らの歴史を主体的に振り返ることが、これからの日中平和友好関係の強化に貢献し、運動を次世代に引き継ぐためにも本書を発刊しました。

「日中労働者交流協会50年のあゆみ」編集委員会

目次

発刊にあたって	3
---------	---

序 章	9
-----	---

第1部 日中友好の黎明

第1章 在華同胞帰国事業	17
--------------	----

1 帰国の呼びかけ	17
2 「興安丸」の乗船代表として	18
3 帰国事業の経過	30
(1) 日本の中国侵略	30
(2) 前期集団引揚げ	31
(3) 後期集団引揚げ	32
(4) 日中国交回復以降の帰国事業	33

第2章 中国人俘虜殉難者遺骨送還運動	35
--------------------	----

1 中国人俘虜殉難者慰霊実行委員会の発足	35
2 花岡事件	38
3 遺骨送還までの闘い	39
4 全港湾新潟支部における遺骨送還運動	41
5 中国代表団の訪日と帰国船・遺骨送還の中断	42

第3章 日中国交回復運動と日中共同声明	44
---------------------	----

1 日中国交回復運動	44
2 日中共同声明の意義	46
3 日中関係の4つの基本文書	49

第4章 戦後補償裁判	51
------------	----

1 南京大虐殺をめぐる裁判	51
(1) 李秀英裁判	51
(2) 3つの名誉棄損裁判	51
(3) 東史郎裁判	52
(4) 虐殺30万人の根拠	53
2 BC級戦犯裁判	53
3 中国人強制連行裁判	55
4 和解から友好へ	58

第2部 日中労交の50年

第5章 日中労交の結成	63
-------------	----

1 日中労働者交流協会の結成	63
2 日中労働者交流の窓口として	69
3 日中平和友好条約をめぐる論争	70

第6章 改革開放と技術交流	73
---------------	----

1 中華全国総工会第9回全国代表大会	73
2 改革開放と技術研修団の受け入れ	74
(1) 中華全国総工会機械労働者代表団	75
(2) 井上工業における中国厨房設備製造技術研修	76
(3) 京滋・金属機械高齢退職労働者技術交流訪中国	79
(4) 日中労交第5回訪中国	80
(5) 中国港湾労働者友好技術交流団	80
3 日中青年交流	81
4 中国職工対外交流センターの設立	81

第7章 南京記念館の開館と市川会長の「誓い」	83
1 『労働情報』・全国労組連訪中国の南京訪問	83
(1) 訪中国の招請要請	83
(2) 南京記念館の建設現場へ	83
(3) 教科書問題と靖国神社公式参拝	86
2 南京記念館の開館式に参加	88
(1) 代表団の派遣とカンパを決定	88
(2) 市川会長らが開館式に出席	89
(3) 開館式出席をめぐるいきさつ	91
3 「誓い」の額と図書の寄贈	94
(1) 「誓い」の文章の変遷	94
(2) 南京大虐殺関係図書の収集	96
(3) 市川会長の再度の南京訪問	96
4 中国人民抗日戦争記念館の開館式に参加	96
5 南京大虐殺史国際学術シンポジウム	97
第8章 天安門事件と総評の解散	99
1 天安門事件	99
2 総評の解散と連合の結成	100
3 『日中労働者交流』の休刊と新体制の確立	101
4 中華全国総工会との相互交流	102
第9章 南京展開催などの取り組み	105
1 大阪「彰往察来」碑の建立	105
2 731部隊展・毒ガス大阪展	107
3 南京大虐殺証言集会	108
4 中国人技能実習生への暴行・人権侵害事件	110

第10章 「誓いの碑」の建立	112
1 「誓いの碑」建立の呼びかけ	112
2 南京記念館との折衝	113
3 除幕式	114
第11章 日中労働情報フォーラムの結成	117
1 中華全国総工会との相互交流の中止	117
2 日中労働情報フォーラムの結成	119
3 南京大虐殺死難者国家公祭への参加	121
4 日中不再戦の誓いの旅	124
5 映画『ジョン・ラーベ』上映運動	127
6 日中友好労働者シンポジウム	129
第12章 日中労働者交流協会としての再出発	133
1 『以史為鑒』のインタビュー	133
2 香港問題をめぐる論争	134
3 日中労交としての再出発	136
4 コロナによる交流中断時の活動	138
(1) 日中友好集会の開催	138
(2) 国内フィールドワークへの参加	139
(3) 日中国交正常化50周年の学習活動	140
5 日中友好の新しいチャンス	141
資料	
日中労交50年のあゆみ年表	148
中国人強制連行・強制労働事件の経過一覧表	152
中国人勞工が強制労働させられた135の事業場	154
参考文献	155
あとがき	158